

令和7年度 第3回気高地域振興会議議事概要

日 時 令和7年7月1日（火）午後2時00分から午後4時00分

場 所 気高町総合支所 2階会議室

〔出席委員〕

地原伸、原克栄、大原友美、河根裕二、渡辺雅子、片山敬子、木村明則、
湯口正子、荒尾純子、松井千晶、武田敏男、田中敦志

以上12名（順不同敬称略）

〔欠席委員〕

なし

〔事務局〕

中原支所長、久野副支所長兼地域振興課長、伊藤産業建設課長、森本市民福祉
課長、小宮地域振興課長補佐

〔傍聴者〕

なし

◎議事概要

1 開会

2 報告事項

（1）第12次鳥取市総合計画及び第3期鳥取市創生総合戦略（鳥取市地方創生
アクションプラン）について

【地方創生推進室】昨年度、市民アンケートやまちづくりワークショップを実施し、市民の皆さまからいただいた意見を踏まえて「第12次鳥取市総合計画基本構想（素案）」の策定を進めている。総合計画は「基本構想」「基本計画」「実施計画」で構成され、さらに重点施策については、並行して策定している「第3期鳥取市創生総合戦略（地方創生アクションプラン）」に位置付ける。今後は10月に市民政策コメントを実施し、広く市民の皆さまからご意見をいただくとともに、議会などの議論を経て、令和8年2月議会で議決をいただき、令和8年度から施行予定である。

【委員】 アンケートの対象者や年齢構成を教えてください。また、アンケート結果をどのように計画へ反映しているのか、具体的に伺いたい。加えて、人口減少対策について代表的な施策を一つ挙げてほしい。さらに、移住者からの聞き取りは行っているのか。

【地方創生推進室】 アンケートは年代・性別に偏りが出ないように実施した。対象は 4,000 人で、回収率は 45%（約 1,800 人）。回答結果は「基本構想（素案）」10 ページに市民の声として整理しており、現在作成中の基本計画や施策に反映していくこととしている。総合計画は行政だけでなく、市民・事業者と一緒に作り、計画の実行にあたっては皆さまと協力して進めていくべきものと認識している。人口減少対策では、移住促進に取り組んでおり、現在、年間 500 人程度の移住者数となっている。その 8 割は若者・子育て世代である。国が掲げる「地方創生 2.0」の取組を踏まえ、若者・女性に選ばれるまちを目指し、雇用の場の創出や魅力あるまちづくりに取り組むこととしている。また、プロジェクトとしては、鳥取駅周辺の再整備に取り組んでいる。移住者のアンケートは担当課において実施しており、そうした声も計画に反映することとしている。

【委員】 気高や周辺地域の強みも生かしてほしい。同じ鳥取市として、全市域が計画的に回るようにしてほしい。

【地方創生推進室】 「魅力ある中山間地域振興」の施策に、各地域の振興の取り組みやイベント等を位置付けていくこととしている。

【委員】 駅前整備だけでなく、中山間地域の魅力や個性を生かすことが重要である。地域ごとの特徴をコラボレーションにより地方創生に生かしていくことが必要である。

【副会長】 気高町を含めて、地域生活拠点のネットワーク型コンパクトシティ構想が示されている。公共交通をさらに充実させるのか、それとも既存の地域交通を結び付けて活性化につなげるのか伺いたい。

【地方創生推進室】 公共交通の維持は困難になっており、既存のバス路線に加え、鳥取駅南側で実施しているオンデマンド交通の実証を進めるなど、効率的で持続可能な公共交通の確保に向け、県と連携して取り組んでいる。

【会長】 鳥取市単独ではなく、近隣市町との観光・交流の戦略的連携が必要。

ジオパークのように広域的な枠組みを生かした構想や戦略が求められることから、計画に広域連携の視点を生かしてほしい。

【地方創生推進室】第12次鳥取市総合計画基本構想（素案）の計画推進における基本方針に「協働・連携の推進」を掲げており、因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏など、県境を越えた広域連携の取り組みを進めることとしており、こうした視点を計画に反映することとしている。

【委員】アンケート結果（7ページ）では地域活動の「重要度」が低く評価されているが、高齢化も進むなかで、住民同士のつながりというのはすごく重要なものになってくる。防災や地域のつながりは重要であり、数値だけで優先順位を決めるべきではない。こうした意識はしっかりと伝えていくべきである。

【地方創生推進室】7ページの表には重点改善分野として掲載はしているが、その他の分野も取り組む必要がある分野もあるので、重要度や満足度が低い分野についても引き続き取り組んでいきたいと考えている。

（2）鳥取市西地域の活性化に向けた産業振興構想（案）について

【企業立地・支援課】鳥取市西地域において豊かな自然環境を活かした産業の育成・振興の取組を考えている。今ある自然環境を開発するということではなく、しっかりと管理して活用し、産業として育成することで地域振興を促進する取組である。期待する効果としては、雇用や関係人口の創出、遊休不動産の利活用や次世代人材の育成である。気高町日光地域において自然資本産業モデル事業を予定しており、計画としては、2025年から2027年度において、主に生態系や社会文化調査、モニターツアーなどを実施する。また、若手起業家を育成する「ローカルベンチャースクール」を立ち上げる。2028年度以降は民間企業による投資・自走を促していく取組になる。事業は市が民間企業（エーゼログループ）に委託をしたうえで一緒になって進めて行く予定にしている。

【委員】夢がある話だと思って聞いていた。鳥取市周辺地域でも結構若い方が増えていていろいろなお店ができたりして賑わっているが、気高は鳥取市内であっても郡部で結構疎外感を感じていた。このようなプロジェクトが今後進んでいくことで、気高町のよいところを生かして町全体が盛り上

がって人が増えていくことで活性化し、この事業がうまく進むように期待したい。

【企業立地・支援課】 気高町にはいろいろな特産品があり、問題はこれをどういうふうに繋げて組み立てて、商品として外に出していくか。あれもこれもあるというだけでは、なかなか人は動かないので、どういうふうに出していくかということが今回の取組では重要になる。西地域でできたことは、いずれ市全域に展開できるのではと考えている。今回、県もこの取組に対して支援を行っている。

【副会長】 自然を管理しながら活用していくという発想が大変素晴らしいと感じている。日光での取り組みが気高町全体に広がっていけばいいなという願いを込めている。気高町内は田園風景が大変美しく、米作りが盛んな地域で鷲峰山の伏流水で水がとても良いので、お米も大変美味しい。どこも地域も一生懸命取り組んでいるが、後継者問題があり耕作放棄地が発生する状況を何とかしなくてはいけないと思っている。農業法人に委託してもしきれていない状況で、草刈りや水路の掃除が間に合わない状況もあつたりしてもどかしい。例えば、もうすぐ小学校が統合し閉校になった跡地で、県外から農業がしたい人たちを週末だけでも来てもらって、旧校舎を宿泊できる施設に改良して活用していくとまた違う形で農業を維持できるのではと考えている。委託企業の知恵を借りながら、廃校舎を有効活用するようなことも踏まえて日光での取り組みを広げていただきたいと考えている。

【企業立地・支援課】 まさに言われたとおりで、地域で農業があるからそういった原風景が守られている。農業を維持していかないとコウノトリも人もやって来ない。農業プラス観光や農業プラス食品加工そういった形でやっていくことが現実的である。エーゼログループも基本的には農業をやりながら、いろいろな事業を手掛けている。エーゼログループの拠点である西粟倉を直接見ていただきたい。

【委員】 エーゼログループに今年度より3年で委託になるのか。大学の先生など専門家を連れてきて調査を行い、事業を直接市ではなくエーゼログループが実施するのか。あと拠点となる場所はどうなるのか。

【企業立地・支援課】 自然環境調査やモニターツアーの企画などを市と一緒に進めて行く。エーゼログループが主体として、市や県、鳥取大学、環境大学、地域も入って協議会を立ち上げ情報共有しながら進めていく予定である。エーゼログループは企業誘致として鳥取に事務所を開設する。現在、日光地域周辺で事務所物件を探している。

【委員】 国の交付金事業で期間は3年間と聞いたが、4年目以降市としてどのような考えを持っているのか。いろんなことに取り組んでその結果で改良していくことを繰り返していくかと思うが、その後どういう形で発展させていこうと考えているのか。

【企業立地・支援課】 まずは3年間でどういう形になるかが前提で、エーゼログループの拠点である西粟倉でもここまで来るのに20年ぐらいの時間を費やしている。この3年間で具体的な取組を取捨選択していくことになる。例えば、すでにエーゼログループが西粟倉で行っているレストランや宿泊施設を投資して作る可能性はある。そういった場面になったときに地域にとって非常に良いので、行政として支援しようという形になるかもしれない。あとは外から起業を前提として若い人がどんどん地域に入ってきた場合に行政としても支援できないか。いろいろな可能性がある。これから計画を実施していくなかでそういった情報は地元住民と共有しながら、進めて行きたいと考えている。

【委員】 先ほど鹿野の温泉イチゴの話があったが、脱炭素型農業も今後非常にいいと思うが、これから10年から20年後には人口が約半分になる。そうすると浜村近辺は住宅地になり人口が集中する。一方で奥地の方では過疎化で人口減が加速することが考えられる。そこら辺をもっと一緒になって協議したいと思っている。農業以外にも工場などこれから流行るような業種などはないものか。

【企業立地・支援課】 我々が想定しているものは鹿野での温泉イチゴのように温泉熱を活用して農産物を栽培する脱炭素型次世代農業。気高も同様に温泉を活用した農業参入について県外企業と協議している。作物としてはコーヒー豆やカカオ、マンゴーやパパイヤ、メロンといった企業からすると、単価が高いものでないと付加価値が出ない。これからの地球温暖化に

対応するような作物を鳥取で作ることを考えている。現在コーヒー豆などの輸入品の値段上昇が著しい。こういったことを踏まえたうえで企業誘致の中で農業誘致もやっている状況である。西地域には電子、機械、金属関連工場を誘致するのではなく、農業などの1次産業に加え、食品製造業、観光業などを誘致・集積させていくイメージを持っている。

【委員】 人を集めるためには工場よりも食べ物関係だと思うので、例えば八頭町にある大江の郷のような人々が集う場所が増えると、雇用にも繋がるといったよい流れになると思うので、食品関係で地域の活性化に繋がればいいなと考えている。

(3) 気高地域の小学校統合に関する取組みについて

【事務局】 6月16日に第4回気高地域学校統合準備委員会が開催された。主な内容は逢坂小学校の浜村小学校への先行編入が来年4月からとする基本方針についてと新設統合小学校での放課後児童クラブについての報告がされたこと。鳥取市気高地域新設統合小学校整備基本構想・基本計画（案）について議論がなされた。

【委員】 新設統合小学校の場所も決定し、これから議論が深まっていくことと思うが、現在ゆうゆう健康館のところが砂地による地盤沈下が起こっており、その影響でトイレに繋がる通路が波打っている状態である。同じことが新設統合小学校でも起こらないかといった心配や8割以上の児童が線路を渡って通学するので、特に踏切部分においてしっかりと安全が確保できるよう対策を講じてほしい。

【事務局】 現状としては、勝見川の放水路を今後県が整備すると聞いており、浜村川の河川改修についても近く整備されるということで、水害のリスクは大幅に回避される。災害リスクはゼロかというところと今の時代においては非常に難しい。地盤についてもボーリング調査をおこなっており、かなり浅い層で硬い岩盤が出ており、全く問題がないと調査会社からは報告があがっている。

【会長】 先ほど通学に踏切を渡るといった話があったが、統合小学校準備委員会でも子供たちの安全安心が第一であることは認識しており、今後しっかりと検討していくので安心してほしい。

3 協議事項

(1) 気高地域振興未来会議だより（1号）について

【事務局】昨年度までの地域振興会議だよりということで、会議2回ごとに1度発行されていた。より広く地域住民に知っていただくことを目的にしている。今年度より地域振興会議に代わって地域振興未来会議が立ち上がったので、前回に引き続き発行予定としている。この内容でよければ今年25日金曜日に町内全戸配布を予定している。

4 その他

(1) 気高地域振興未来プラン実施計画について

【事務局】前回会議で委員から意見をいただいた内容を反映させている。目標【めざす将来像】の項目を4つの柱と取り組む項目を分けて最終的に23項目を掲載している。意見等なければそのまま進めて行きたいと考えている。

【委員】本日説明があった西地域活性化に向けた産業振興構想（案）について予算額が入っていないので、6月補正予算額を掲載してほしい。逢坂小学校の浜村小学校への先行編入について、児童を乗せるためのバスを現状のものから少し大きめのマイクロバスに変更するための購入費が計上されていたように記憶している。そのあたりもリアルタイムに情報共有をしてほしいと思っている。

【事務局】情報はリアルタイムに反映できるようにしていき、情報の共有を図っていきたい。

※次回日程について

令和7年10月7日（火）14時からとし、後日改めて連絡する。

以上